

令和4年度 第3回高知県スポーツ振興県民会議
地域スポーツ推進部会 議事要旨

日時:令和4年12月22日(木)13:30~15:30

場所:県立文学館1階ホール

出席:部会員10名中6名が出席

議事:

- (1)令和4年度スポーツ施策の進捗状況について
- (2)第3期高知県スポーツ推進計画について

1 開会

2 議事

(1)令和4年度スポーツ施策の進捗状況について

- 事務局から議事(1)を説明後、協議を行った。(部会員の発言は以下のとおり)

(島崎 部会員)

- ・12月3日に、野市の青少年センターで行った「高知県スポーツ推進委員研修会」は非常に有意義であった。連携協定を結んでいる大阪体育大学の学生が教えてくれた多世代に対応できる「ASEグループワーク」を早速、次の日に小学校に紹介した。PTAにも報告し推進していきたい。
- ・11月に全国スポーツ推進委員研究協議会滋賀大会があった。分科会での活動報告がスポーツ推進委員の報告よりも、活動NPO法人企業の報告が多く、スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブの活動が少ないように感じた。スポーツ推進委員の活動も活発にさせていきたい。
- ・部活動の地域移行について、高知新聞に教員の賛否のパーセンテージが掲載されていたが、休日は地域クラブ、平日は学校部活動で指導となるとチグハグな感じを受ける。先日の全国スポーツ推進委員研究協議会でも同様の話が出ていた。感想まで。

(事務局)

- ・地域のことを知っているスポーツ推進員、総合型地域スポーツクラブも含めて、地域でのスポーツ振興の取組の活性化に取り組んでいきたい。
- ・部活動の地域移行についてはやりたいと考えている市町村への支援ができるようにしたい。

(公文 部会員)

- ウェブサイトの立ち上げについて、SNSで様々な情報を発信していると思うが、県スポーツ課のインスタグラムのフォロワーが現在1,040名。SNSは関連のある情報で出てくるので、サイトを立ち上げると、受信者側から情報を取りにいかなければならないこともあると思うが、SNS情報発信の今後の見通しや、フォロワー数の目標数値などがあれば教えていただきたい。

(事務局)

- 計画素案 P23 でそれぞれの目標数字を提示している。また、今後、不足している部分について外部の方から助言をいただきながら進めていきたい。

(前田部会長)

- 第2期スポーツ推進計画が終わりに差し掛かっており、評価方法については、実績等を見て、数値目標で A、B、C 評価でつけられているが、例えばその他の指標とかで、住民の方々に対してのスポーツ実施の調査や、スポーツに関する機運の推移など、そういった指標を検討し第3期計画に入れるような検討をするべきと思う。特に地域スポーツに関しては、恐らく地域スポーツハブの取り組み結果や、地域の方々の意識を伺う機会があれば、非常に良いと思う。

(事務局)

- 計画素案 P5 に「R3 年度県民の健康・スポーツに関する意識調査」での調査結果を示し、また HP 上でも公開している。ただ、個別のイベントでのアンケート結果等を整理したうえで見える化することまではできていない。今後、意見収集方法やその対象についても相談させていただきたい。

(北村部会員)

- 資料2に関する事で、11月に宿毛市で障害者の陸上競技大会を実施した際、宿毛市総合運動公園陸上競技場の老朽化が激しく、幡多地区陸上競技協会から来年度は開催できないかもしれないとの意見が出た。当施設の所管は宿毛市になるのだろうが、ここに限らず県内のスポーツ施設、特に2002年の国体で整備された施設等の老朽化がかなり進行していると思われる。市町村単体で施設を維持するメリットはあまりないのかもしれないが、県域でみたときに、あの規模の施設があるのとないのとは、地域の子供たちにとっては大きな影響があると思う。障害者スポーツでも幡多地区で1名有力な子どもが出てきており、進学も地元幡多地区を希望している。そういった子どもたちがスポーツをしようと思ったときに、地域で環境がない、中部地区まで出ていけないといけないという状況は残念に思う。施設維持管理の在り方や整備における優先順位の検討、国費の活用など、部局を超えて取り組む体制が必要と思うが、例えば、部局間でスポーツ施設の共有リストがあるかをお聞かせ願いたい。

(事務局)

- ・市町村が所管する施設は基本的には各市町村で整備するものと捉えている。
- ・ 県所管の補助金として「地域スポーツ推進交付金」があり、競技力向上やツーリズムに資するものについて、一定の条件の下で施設整備を補助する制度がある。
- ・ 広域のスポーツ振興に繋がるものについては、関係者等の意見を聞きながら支援の在り方を今後検討したい。
- ・ 県内のスポーツ関連施設について部局間で共有しているリストは現状ではないと認識している。

(田井部会員)

- ・総合型地域スポーツクラブについて、地域スポーツハブ事業が終わるということで、各ハブに聞くと、かなり成果をあげてきていると思っている。一方で、他のスポーツクラブ等との連携ができなかったところが自分としては心残りと感じている。次からは、他の市町村との連携を活動の中に入れていければと思っている。
- ・リモート機器について、色々やってきたが他県での成功事例があれば教えていただきたい。他県ではこういう使い方をしていたということを示していただければ、なるほどそれならできそうなのでやってみようと思う機会になるかもしれない。
- ・新聞にも出たが、総合型地域スポーツクラブ自体の知名度をもう少し上げていくところに力を入れてもらえれば良いと思う。今後、学校部活動の地域移行などに関連して総合型地域スポーツクラブの名前が出てくるが、総合型地域スポーツクラブは赤ちゃんから大人まででやっていくスポーツクラブと考えている。例えば、県の事業の中で総合型地域スポーツクラブのブースを入れてもらうとか、総合型地域スポーツクラブ自体の知名度とニーズを上げていくことをやらないと、クラブの存続が厳しくなるのではないか。県主催のスポーツ JAM フェスタの際にブースを入れるとか、是非お願いできればと思う。

(事務局)

- ・来年度、広域の取り組みは県でいくつか調整したい。また、他県のリモートスポーツの良い事例があれば紹介する。
- ・総合型地域スポーツクラブの知名度向上については、関係団体と一緒に考え、県も協力したい。

(2)第3期高知県スポーツ推進計画の(素案)について

- 事務局から議事(2)を説明後、協議を行った。(部会員の発言は以下のとおり)

(北村部会員)

- ・1点目、計画素案 P27 の、障害者スポーツの活動支援・身近な地域におけるスポーツ機会の拡充について、今年度国費で用具の整備事業が実施されていると思うが、用具を整備しただけに留まらず、それを活用することで、その施設管理者が障害者スポーツに対する知識を深めてもらいたいという思いがある。全国的には指定管理の仕様書に障害者スポーツの推進をどう捉えるかといった要件を盛り込む動きも進んでいるので県としても取り組んでいただきたい。
- ・2点目、資料3「計画概要」の柱3「スポーツを通じた活力ある県づくり」について、先日県主催事業として県内外の選手を招致した車いすラグビー大会を黒潮町で実施した。その中で、パラカヌーの小松選手が同じ幡多地区にいてということ、ボランティアとして大会を支援してくれた。大会後に彼女と、大会を通じて何が良かったかについて話をした際、幡多地区の居酒屋店のカウンターいっぱい車いすの方々と並んで食事をしている光景があり、これをもっと作りたい、と語った。車いすの方が飲食店に集まるのは店側の理解も必要であるし、街としてバリアフリー環境がどれほど整備されているかが課題。我々も同じ思いを持っており、大会の誘致のみならず、障害のある方が地域で活動する意味を、そういった視点でも検討いただきたい。県社会福祉協議会が障害者スポーツセンターの委託を受ける意味合いや目指すところは、こういうところにあるのだと思って

いる。

(川村部会員)

- ・1点目は障害者スポーツについて、昨年まで中学校の部活動で顧問をしていたが、特別支援学級の子どもが野球部に入って頑張っている活動していた。その生徒のクラス担任の先生が、その子(部活動に入っている子ども)たちはスポーツに触れる機会があるから良いけれども、通常の場合、特別支援学級に入っている子ども達はスポーツに触れる機会が少ない。何らかの形でそうした機会ができないかとの話もあったので、学校や総合型地域スポーツクラブとの連携という点や、学校の特別支援学級へのスポーツ参加への啓発、広報活動にも力をいれていただきたい。
- ・2点目は運動部活動の地域移行について。先だって国の方針がスピードを緩めたとの報道があり、子どもたちにとって、運動部活動が地域移行したものの大会に出れなかったり、部活動ができない等とならないようにと考えている。国の方針が固まらない中で県として、どう進めていくのか、悩ましいところだと思う。県に何かをお願いしたいとかではなく、県中体連としては学校体育がメインになると思うので、子どもたちを大会に参加させていくとともに、国の方向性として地域クラブへの参加を少しずつ広げながらやっていかなければならないというところがある。新たに県中体連の地域スポーツクラブの大会参加について改訂したものを提案しようとも思っているので、また見ていただいて参考にさせていただければと思う。

(公文部会員)

- ・障害者スポーツについて、学校現場や地域スポーツクラブでのトラブルをみると発達障害を持つ子どもの特徴に対応できていない部分が見受けられることが多々ある。障害に対して知識を持っている方とそうでない方では対応が全く違う状況なので、発達障害に対する理解啓発を進めていただきたい。同時に、何かあったときに相談できる窓口など、発達障害に対する支援もお願いしたい。また、医療的支援を必要とする生徒の部活参加について、支援員を付けるなどの状況を作れば、本人にも保護者にも負担がなくスポーツに関われるようになると思う。
- ・中山間地域でのスポーツ参加機会について、中山間地域の学校は部活の人数が少なく、何かあれば市内に出て行くが、保護者の協力が無いと行けないので、部活の教員の引率が必要。引率用の車など、問題が多々あるが、例えば、学校の公用車があれば活用できるが、中山間地域ではPTAの数が少なく、使用できるお金が少ない。スポーツに参加しやすい環境づくりの推進が必要と考えている。

(北村部会員)

- 部活動地域移行について。先日、文部科学省が小中学校における発達障害の子どもの割合が8.8%と発表した。部活動の地域移行は、そういった課題を持った子ども達を抜きにして考えることは不可能なところに来ているのではと感じる。地域クラブに出ていく子どもたちの受け皿となるであろう総合型地域スポーツクラブには、そういった子どもたちをどのように受け入れていくかを考えていただきたいと思う。そうすることで、子どもの居場所が増える良いきっかけになるのではと思っている。我々もそのための連携等に取り組んでいきたいと思う。

(川村部会員)

○部活動地域移行について、地域移行が進んでいくと指導者の育成が重要になる。指導者に生徒指導の仕方であるとか対策・対応であるとか、クラブの運営方法や保護者対応など、人権教育を含めた指導やスキルも必要となってくるのではないかと思う。学校部活動であれば教員がある程度経験を積んでいるので対応はできると思うが、地域クラブの指導者の育成も考えていかないと、今後トラブルが発生した時に、それがきっかけで子どもたちがスポーツから離れていかないような形をとる検討も必要と考える。

(田井部会員)

○学校教員の方からは「部活は生活指導の一環となっているから切り離せない」とよく聞く。そこを切り離して地域移行となれば責任は全部地域となる。受け入れる立場からすると、地域クラブの中で生徒が問題をおこさないような普段の生活指導を学校の授業の中でやっていただきたいと思う。学校の授業等を通じて子どもたちとの関わりの中できちんと指導していただいていることを信じて受け入れる形になると思っている。地域移行していく際は、国の方針として学校教員に生徒指導面について言及してもらいたいと考える。

(川村部会員)

○ご指摘いただいたとおり、部活動は生活指導の一環も含めたものであると思うし、それがなくなることで、教員による教育力の本質が問われると感じている、授業の中で問題が起きないような集団であるとか、子どもたちの心の成長について、学力とともに身につけていかなければならない。子どもたちを地域クラブで面倒をみていただけることは理想だと思うが、学校との連携も必要になってくると思う。国の方向性で言うと、学校部活動の地域移行のメインは「教員の働き方改革」だということ。このため、学校が地域クラブとの連携等で時間を多く割かれることになれば、働き方改革に逆行することになりかねない。部活動が地域に出ることによって専門ではない方の対応が遅くなって、子ども達が辛い思いをして、その問題を解決してもらおうと学校に持ってこられても、もつれた糸はほどきづらい。県としてそうした面でのサポートは必要と思う。

(前田部会長)

○補足的になるが、部活動の地域移行を考えたときに、すべての部活動を地域に出す必要があるのかというところから議論するべきだということは、色々な専門家の方が言っている。例えば、実際はスポーツ活動の場のことを考えたら、部活動の地域移行と言いつつも、結局学校の施設を使ったりする場合もあるんじゃないかなという風に思う。学校と地域クラブ側がコミュニケーションとりながら、学校の方に活動拠点を置くことになれば、先生方が地域クラブの活動自体にタッチする回数が減る部分が出てくるので、その部分を地域クラブの皆さんが補うとか、そんな議論が生まれてきているところがあることも聞いている。今回の国の方針を受けて、関係者がよりコミュニケーションを取る必要があると思うので、そういう場を作っていくことも必要と考える。

・計画素案について、検討が望ましい点について話をしたい。1点目は、計画素案冊子のP32の「スポーツツーリズムによる交流人口の拡大」というところで、私もスポーツツーリズムを研究している立場でもあるが、学外等でよく聞くのは、高知県の売りは「自然」資源の方なんじゃないかとい

うもの。実際この1から6番で、個人的な意見を含めるとすると、2～4番あたりをもう少し前面的に出すようにすることが、高知県の優位性をしっかりと生かしたような策に繋がると考えている。9ページの県外からの来客数の部分に関しても、大会や合宿の部分しかカウントされていないというところがすごく気になっている。スポーツツーリズムという観点でいくと、アクティビティー関係、例えばカヤック・SUP等を、スポーツツーリズムの捉え方の中で、その事業をいかに開拓して、高知県の素晴らしい自然を体験してもらうかが、恐らく日本に誇れる部分になるんじゃないかと思う。県外からの誘客には、そういった特色のある部分をもう少し押し出していても良いんじゃないかと考えている。もちろん、プロスポーツも含めて、継続的にやっていくべきだところではあるとは思いますが、もしそういったところの検討が可能であれば、お願いしたい。2点目は、私も不勉強なところがあるが、P28の健康パスポートに関する事業の部分で、意外と数パーセントの部分ではあるものの、若年層の方も、20代30代の方も利用されている方がいる。最近、学生達から先程のスポーツサミットというところで研究発表させていただいたときも、学生が施設を予約するときにごく手間がかかる感じなので、学生は施設を使うぐらいだったら外で遊ぶという感覚があったりするということで話をしている。学生の感覚となると、「PayPay」とか自分たちが使っているようなポイントがそこで貯まったらいいなという話が出てきた。例えば、ポイントが貯まる等のメリットをもっと前面に出して、利用者増につながるのではと感じている。

・最後は、私自身も参加しているが、P35のスポーツサミットについてだが、高校生・大学生が意見交換をしながら、現場で実際にインタビューや事前調査をして発表をするという機会を4年前から作らせていただいて、私自身も助言をいただいた中で、こういう形で県の施策の中にも位置づけていただけるとは、学生にとっても誇らしいことだと感じている。指標を見たときにこれを軸にしたイベント実施回数が10件というところが恐らく指標になってくると思うが、どんなプロセスで進んでいくのかといった点が少し気になっている。「何かイベントを実施しましょう」がゴールになるのか、そこにはどういうプロセスで進んでいくのか。今は、現場の課題をお聞きしながら、学生が色んなことを考えるという機会にさせていただいているところで、ただ可能な限り実施するという形で活動している。その位置づけが変わってきたときにどんな形になるのかを知りたい。

(事務局)

- サミットの指標については計画素案P17に記載しているが、現在この指標自体を協議中の段階。重要なことは若い方々によるスポーツに関する議論を行うことだと考えている。
- 指標については、まずは、スポーツサミットで県に提案してもらった数というのも検討案としてあり、指標については今後助言を受けながら検討したい。

(田井部会員)

○スポーツツーリズムの龍馬マラソン、今回約8,000人の参加者とお伺いしたが、県外から高知に来たら高知市内だけで終わる。市内に宿泊したりするが、各観光協会がバスを出して、マラソン翌日はツアーを組んで空港まで送り届けるなど、そうしたセットでの募集なども入れ込んでどうか。

(観光振興部・事務局)

- 観光誘客の取組の工夫として、龍馬パスポートの対象イベントに龍馬マラソンを入れており、参

加者全員に使ってもらうように配布し、マラソン後に周遊してもらえよう工夫をしている。

- ・大会実行委員会や旅行会社において、ランナーを対象とした観光ツアーについては商品化していない。次回大会に向けて関係団体と協議したい。

(公文部会員)

○担い手の育成及び活動の活性化の中のボランティアについて。JFLも高校生のボランティアが多数参加している。現在、県外からの集客に対しての支援はある。ボランティアは完全無償でやるものではあるが、本来対価を求めるものではないが、飲食店のブースを使えるチケットのような、何かひとつでも支援があれば高校生や大学生もボランティアにより積極的に参加するようになるのではないかと。

(2) 第3期高知県スポーツ推進計画の(素案)の競技力向上について

- 事務局から議事(2)のうち競技力向上施策を説明後、協議を行った。(部会員の発言は以下のとおり)

(田井部会員)

○少子化との関連で、子どもの習い事との関連について。水泳選手養成コース教室に子ども達が20名程度いたが、週5日練習するので塾の時間との調整が困難で辞めていく子どもも多い。競技力向上のためには週5日の練習は必要と思っているが、(色々な習い事をさせたい)保護者の気持ちもある。そうした中、保育園にスポーツクラブが訪問して色々な活動をしているが、そこで動ける子どもを見たりとか、練習時間などについて、いかに保護者に理解してもらうかがネックになっている。スポーツ少年団などは活動も盛んで保護者も手をかけてやっているがゆえに、その保護者トラブルで辞めていく子ども達もいるなどがあるため、保護者対応が課題になってくる。

(事務局)

- 子どものスポーツ環境の整備の中で、スポーツ参加の裾野を拓げるという意味で、幼児や小学生がスポーツを長く続けられるよう、スポーツの楽しみや喜びを感じられるようにしたい。また、そうした取り組みに対して助言をいただきながら進めていきたい。

(公文部会員)

○女性のスポーツ参加について。女性が競技としてスポーツに参加する環境が高知県は乏しい。サッカーでは少年女子カテゴリーが新しくできたが、その分、成年女子が2年に1回の隔年開催になった。女性なので1年休んでしまうと2年目は体がなまってしまったり、「ふるさと選手」は回数のカウントが変わってきたり影響が出てくる可能性があるなどと、問題が多々あり、成年女子のカテゴリーは懸念している。県外では大学等で女性がスポーツを続けられる環境があり、そのような問題が少ない。高知県は大学等でスポーツを続けられる環境が少ない印象がある。実際、大学連盟に女性チームが加盟していない県が6, 7県で高知県も入っている。幼少期からの種まきも大切だが、競技力を向上させるためには継続することが必要なので、女性が幼少期から長い間地元でスポーツを競技として続けられる環境づくりも必要ではないかと。

(事務局)

- 女性のスポーツ参加の拡大のための会議体を作り、そこで、様々な切り口でのご意見をいただき、効果的な施策に繋げたい。

(前田部会長)

○競技力向上に関しては、私もスポーツ協会の方で強化普及委員として、その場でよくお話させていただくが、強化と普及はセットにしなければいけないと思っている、委員会に出ている強化のことが中心に話をされていて、強化費の話などが中心になるが、翻って課題を聞いていくと、皆さん口を揃えて団体の部長をされており、子どもが減っていて次の学年が何人入るかという話をされている、これは地域移行やスポーツクラブの意義と関連してくると思うが、海外を見てみると複数のスポーツをやらせてあげる環境がいいのではないかと思う。他のアスリートの報告等を見ていると、できるだけ沢山のスポーツをしていた方が、競技力が上がっていくような子どもが出てきている傾向もある。高知県を見ると人口減少というところがあるのであれば、オーバーワークに気をつけながら1人の子どもに複数のスポーツを経験させてあげるということを継続できれば、競技人口も増えるんじゃないかと思っている。そこまで一気にいかななくても、競技団体間の連携や、もっとベーシックな形で言うと、特に高知県スポーツ科学センターが提供するような内容っていうのは多分どのスポーツに当てはまる部分もあると思うため、オンラインを活用してそこで様々な団体の方に出させていただいて話す機会であったりとか、東京、関東、あるいは海外からもセミナーを有することもできるかと思う。そのような連携を徐々に取り入れ始めていかないと、どのスポーツも子どもがいなくなっていくという状況になっていくんじゃないかと感じている。もちろん各競技団体等の方々が、熱を持って取り組んでくださっているからこそ、競技力強化が実現していることだとは思う。他方で裾野を広げるという意味で、もう少し目を向けるというような作り込みも必要だと感じている。

以上